

FLAT SCAPE

土地に馴染む建築 人々に馴染む建築 閉じながら開く建築

沖縄県 新看護研修センター建設プロポーザルコンペ

コンセプト 沖縄の伝統的な民家のアナロジー

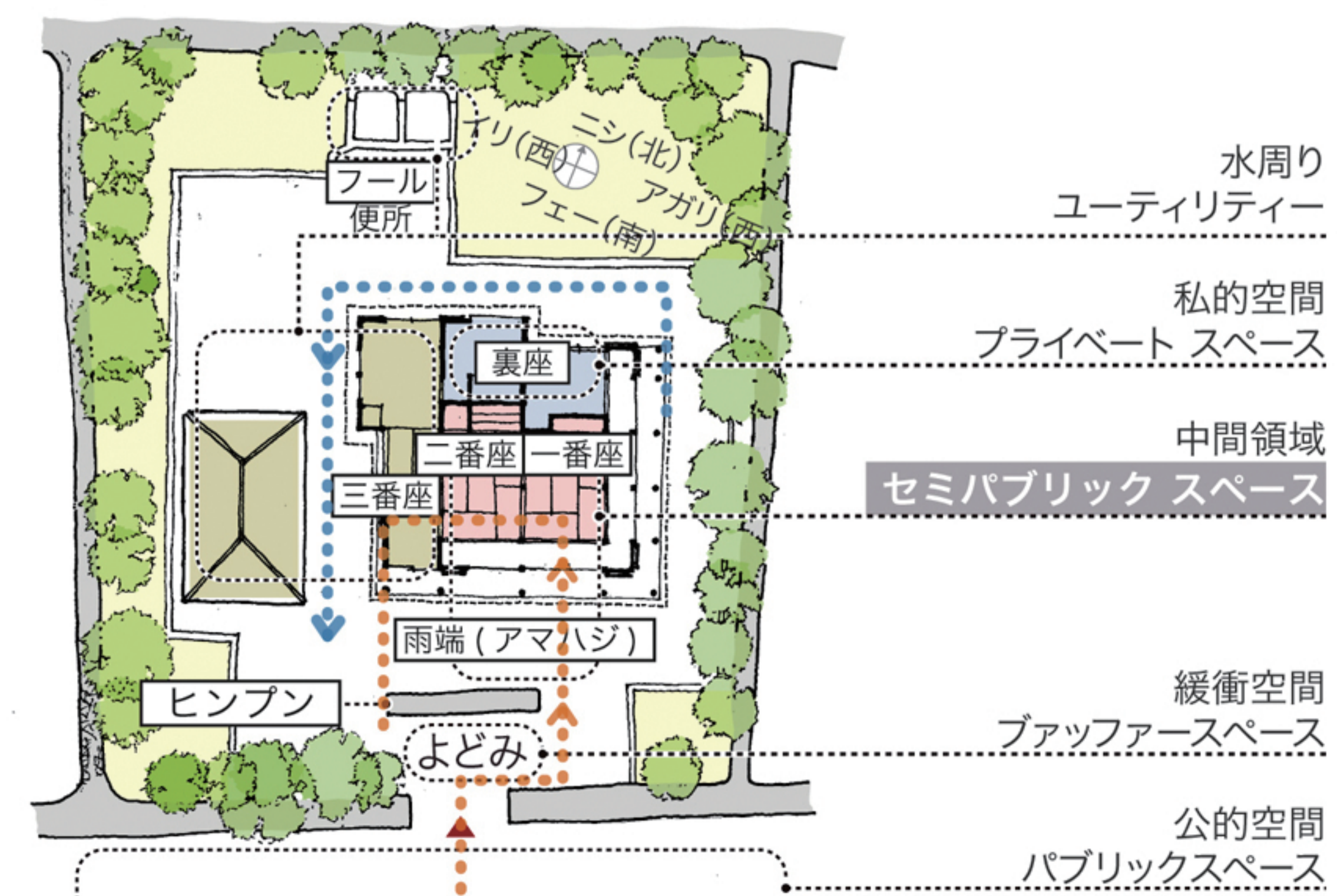
本計画敷地の周囲には、様々な施設が点在しております。また、計画敷地は傾斜地となっており、背後には緑地の景観が広がっております。従って、本研修センターの計画では景観や風土をできるだけ保全しながら、土地に馴染む建築であることが求められると考えます。

また、本研修センターの計画では、医療サービスや介護の向上に繋がるにも、各事業所間の連携が行いやすい空間構成が必要になります。従って、それぞれの類似した機能・諸室が同一階(flat)に配置され、隔たりのない関係にあることが理想的であると考えました。

加えてこのようなフラットな空間の中に、人々が集いやすい仕掛けや、研修室や図書室等への動線が解りやすい可視化されたスロープのある空間を配置しました。このことによって、人々に馴染みやすい建築になると予想いたします。本研修センターは、このような開かれた空間がある一方で、プライバシーや個人情報の保護も求められることから、閉じながら開く空間構成が求められると考えます。

それはまるで、沖縄の伝統的な赤瓦民家の空間構成に見られる「ヒンブン・表座(開いたパブリックな空間)と裏座(閉じたプライベートな空間)」に類似した建築です。

このように本提案における新看護研修センターは、閉じながら開く空間のなかで、土地や人々に馴染みながら、沖縄・という風土に根ざしつつ、アジアの拠点となる場所となることが期待されます。



沖縄の伝統的な民家の空間構成

I 土地に馴染む建築

■ 地形を活かした配置計画

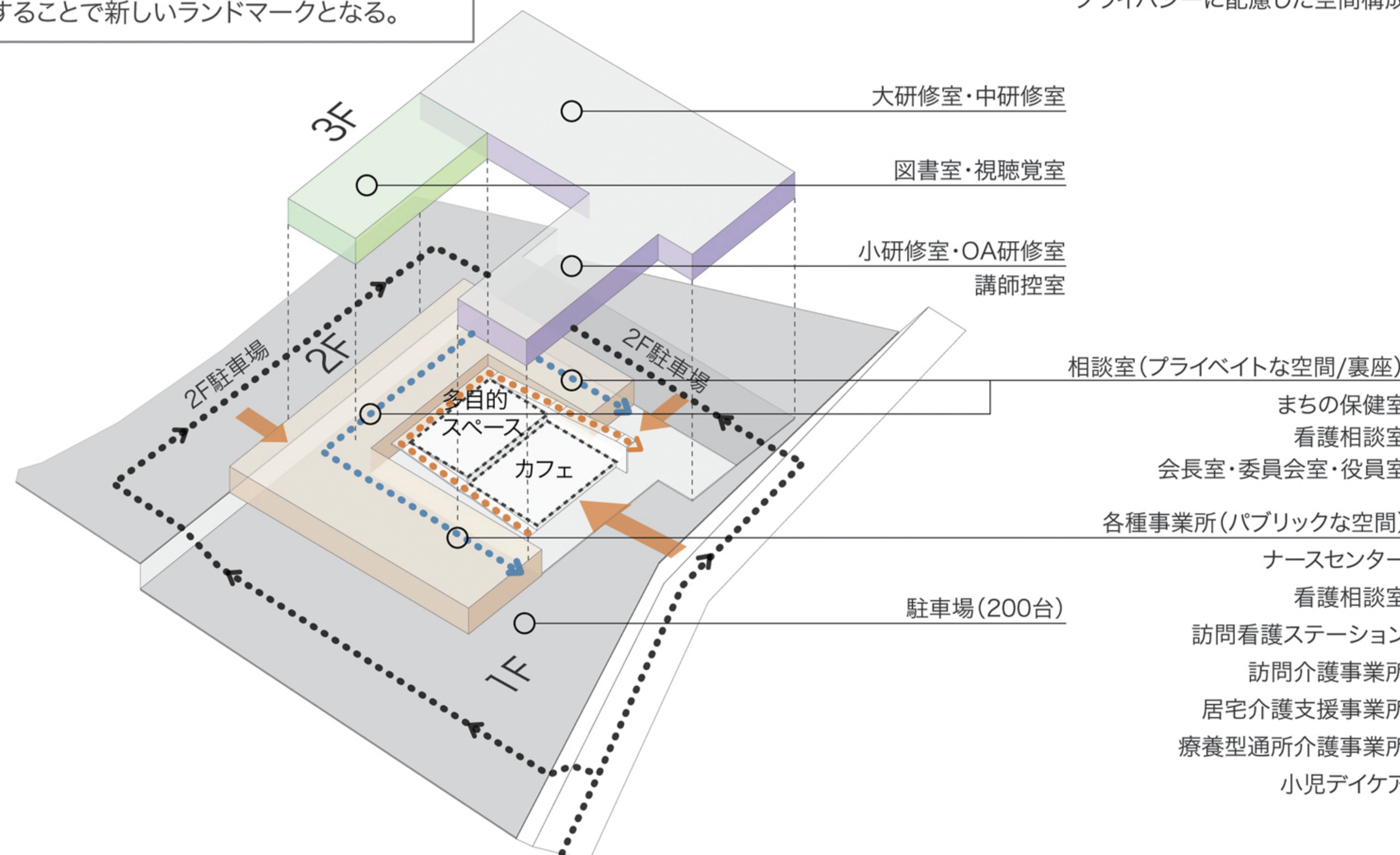
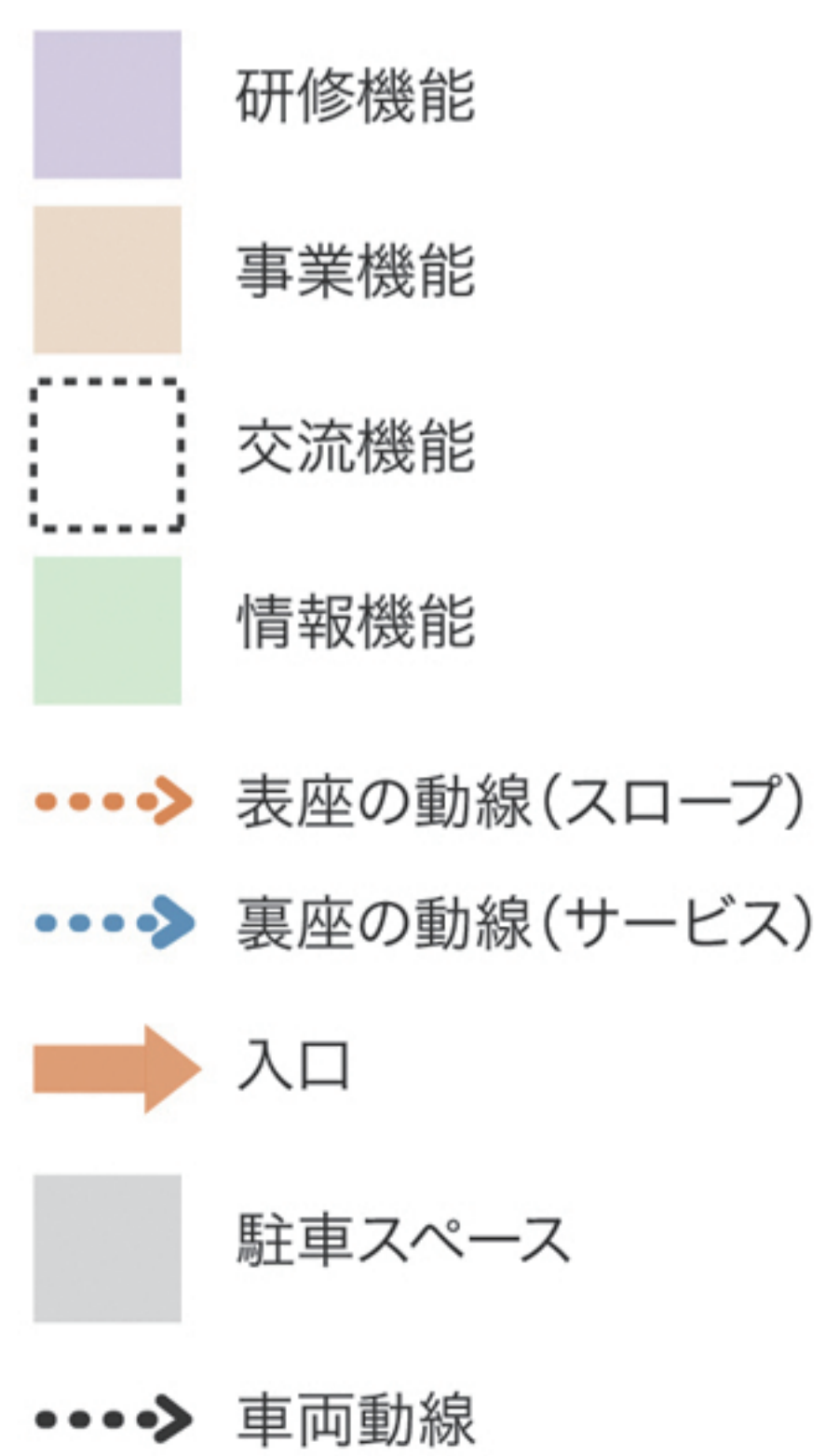
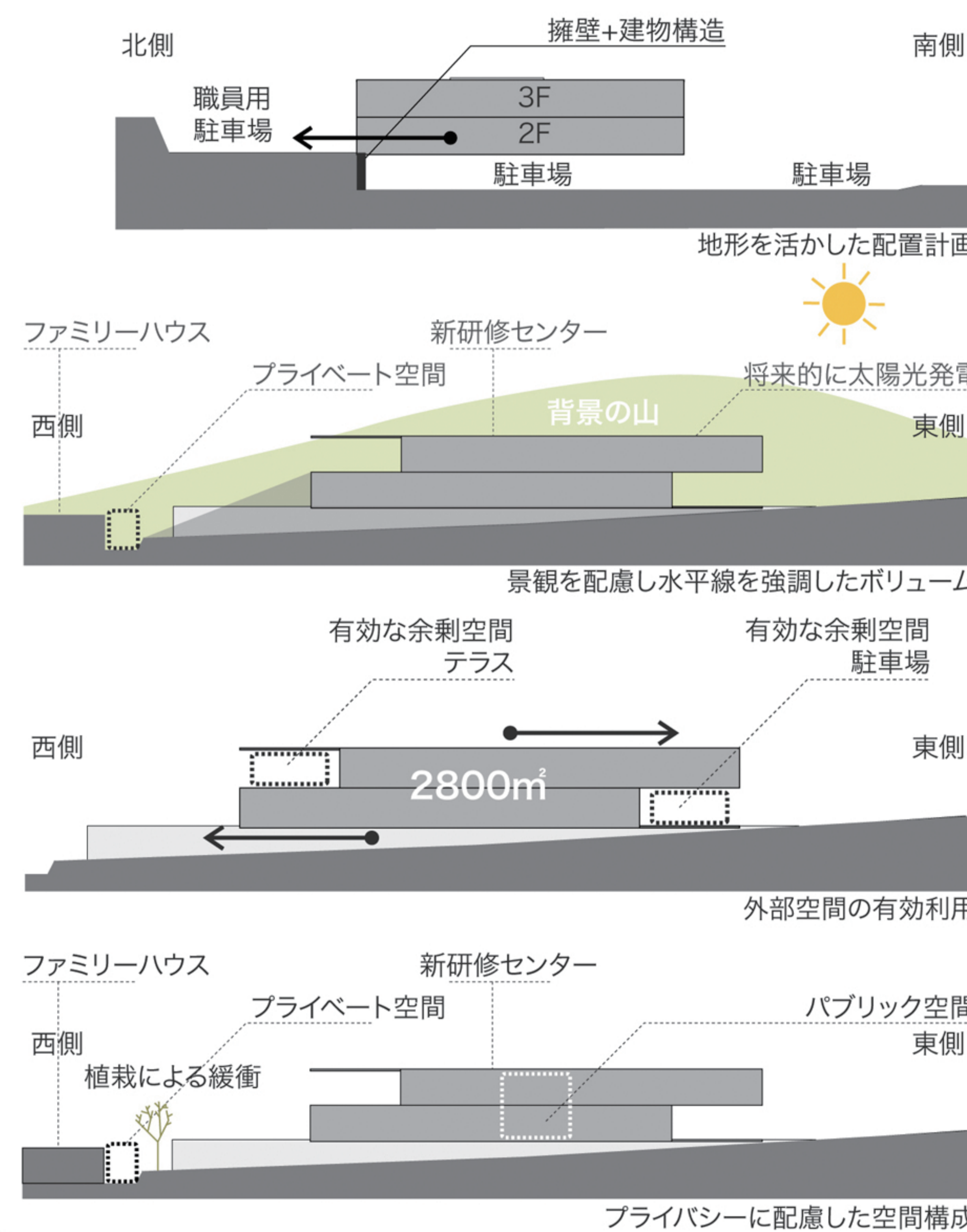
本提案では、周囲の景観・限られた予算・要求機能の観点から、傾斜地の形状をできるだけいじらずに計画を進めて参ります。これに伴い、以下のような設計意図と目的を挙げることができます。

- ・北側の傾斜地を残し、2F職員用の駐車場として有効に活用する。
- ・擁壁を建築物と一体とすることで、工事費を削減することができる。
- ・1F駐車場を地均し掘削した土を北側傾斜地に埋め戻す。

■ 景観に配慮し水平線を強調したボリューム

本研修センターの敷地は、様々な施設が点在するなかでも奥まった場所にあります。よって、医療の拠点とらうような高い建築物が見込まれますが、周辺環境や施設へ圧迫感と日陰を生じさせないよう、水平線を強調した建築のボリュームを提案いたします。このような建築の作法が、新しい価値のランドマークとして定着することを期待いたします。

- ・フラットな建築によって平置きの駐車場を隠すことができる。
- ・背景の景観を保全して自然との一体感を見込める。
- ・低層フラットとすることで隣接する施設への日影を配慮できる。
- ・建築物の水平線を強調することで新しいランドマークとなる。



II 人々に馴染む建築

■ 外部空間の有効利用

本提案では、限られた延床面積と予算内で、有効な外部空間を提供できるような設計を心がけます。外部空間との繋がりが、地形を活かした動線の接地性を確保することで、制限のある空間を実際の面積より広く見せることができると考えるからです。

■ 可視化された動線

例えば研修室や図書室を利用する際、利用者の目的や動機を促す観点から、その目的地までの動線が説明付では学習意欲や動機を軽減させてしまいます。そこで本計画では、各諸室への経路が可視化された空間構成を提案いたします。例えば、吹き抜の緩やかなスロープがまるで「原っぱ」のように、各諸室を身体的・視覚的に繋げ、利用者にとって予想外の学習意欲と研修動機を促してくれるような空間構成となっております。

■ 多様性と固有性の共存

本研修センターは、様々な人々が気軽に利用できるようなオープンスペースが設けられる一方で、様々な相談レベルにおけるプライバシーの確保も求められます。すなわち本研修センターは、医療福祉の情報拠点としてネットワークを構築できる多様性と、個人のアイデンティティを尊重する固有性の両方を保つような、閉じながら開く空間構成でなければいけないと考えます。

V 風土に優しい建築

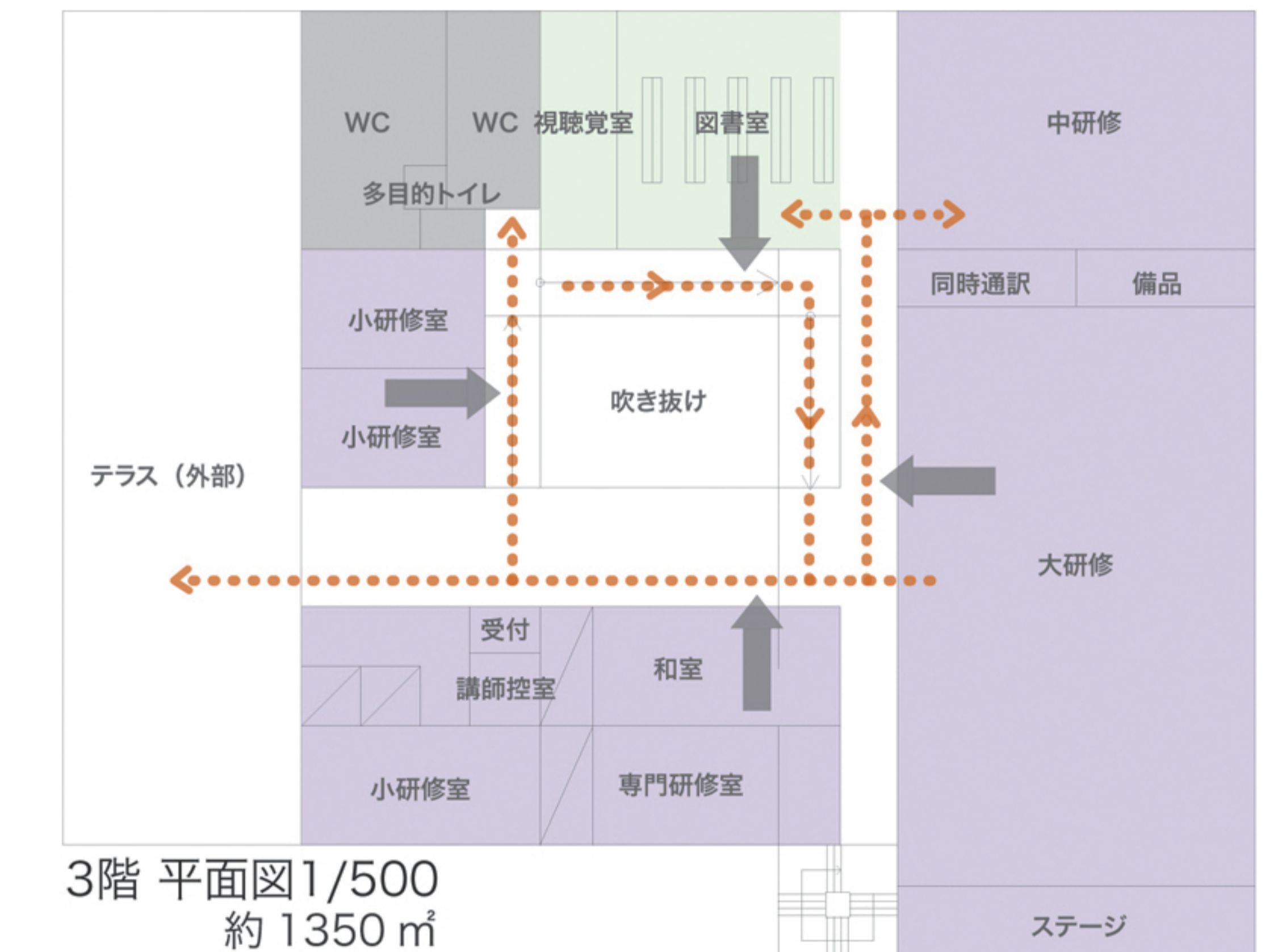
■ 風洞としての吹き抜け

本研修センター中央の吹き抜け空間は、冷やされた空気の流動化を促します。また、沖縄地域の厳しい西日が直接入らないような設計を心がけております。そこで図書室を介して入る北側の柔らかな光が吹き抜けを照らします。

■ 屋上緑化と自然エネルギー利用

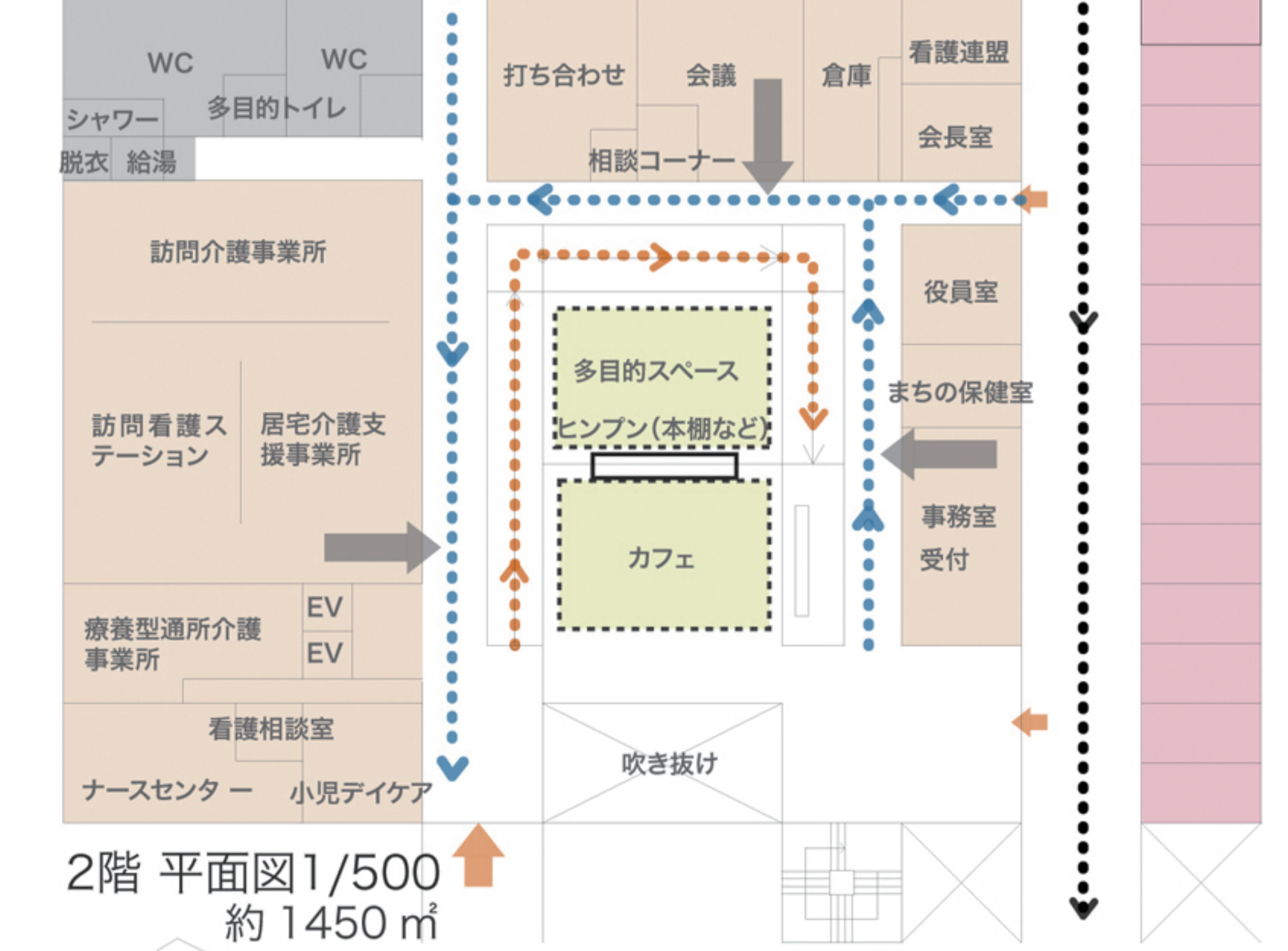
本計画における研修センターは、フラットな構造を持った建築であるため、比較的充分な広さの屋上が確保できます。従って、将来的には屋上緑化あるいは太陽光発電の設置が可能です。

III 自由度のある設計システム

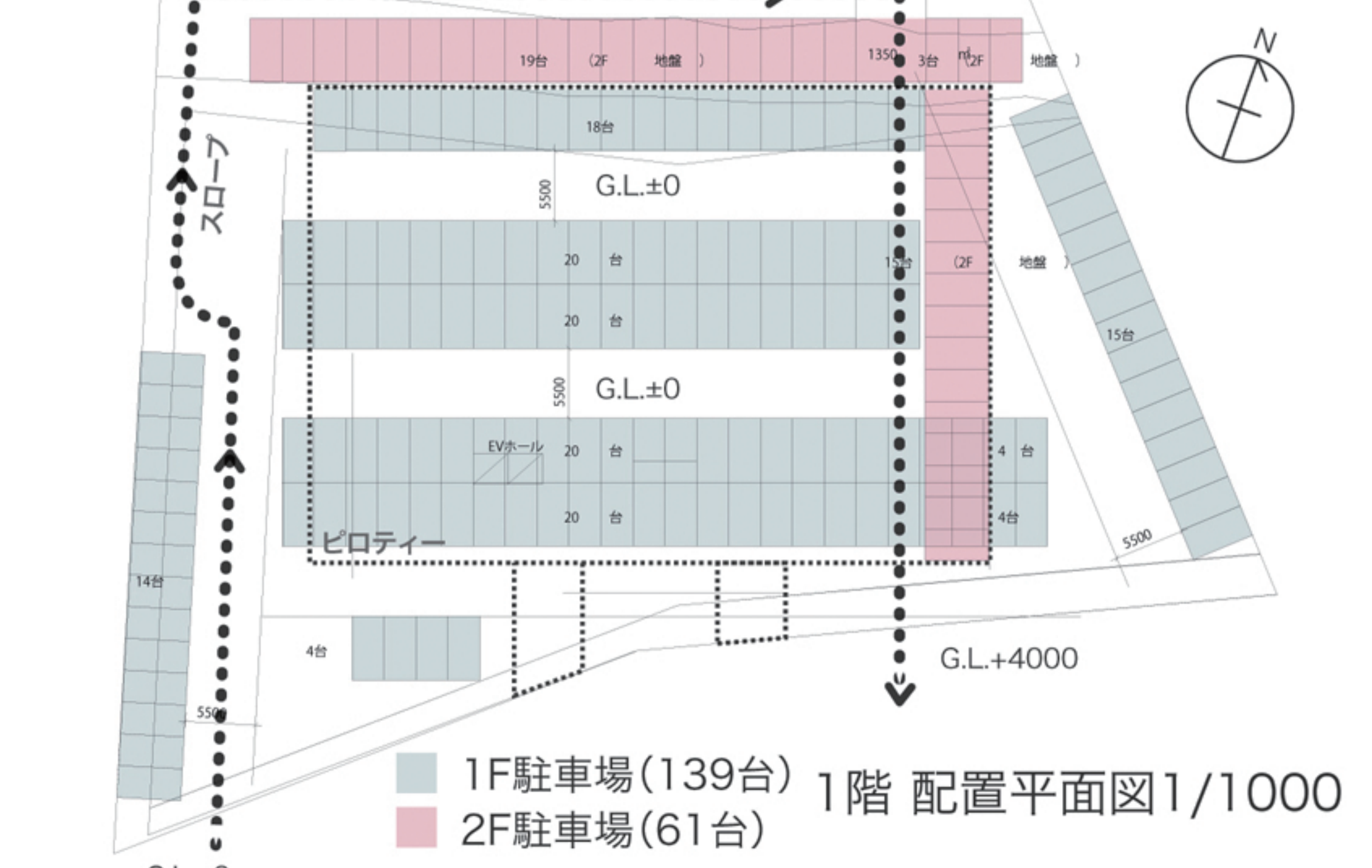


3階 平面図1/500 約1350㎡

中央に吹き抜けを持った空間構成を採用することで、設計協議会において、約2800㎡内で諸室機能の面積を伸縮・調整することが可能となります。



2階 平面図1/500 約1450㎡



1F 駐車場(139台) 1階 配置平面図1/1000 2F 駐車場(61台)